

成瀬の風

東成瀬村立東成瀬中学校

学校報：NO22 作成者：伊藤

発行：令和元年11月26日(火)

第58回 横手地区少年非行防止弁論大会 ～ ぼくの、わたしの主張 ～

☆ 10月17日(木)、横手清陵学院中学校で横手地区少年非行防止弁論大会が開催され、本校からは1年生の谷藤翔太くんが出場しました。弁論題は「こぶしに生きる」。翔太くんは、民謡を始めたきっかけや民謡への思い、自分自身の将来について、横手清陵学院中学校の生徒を前に堂々と発表しました。あっぱれ！

民謡との出会いは小学一年生の時。小さい頃から歌うことが好きでした。しかし、はじめから民謡に興味をもったわけではありませんでした。

きっかけは家族がかかわっていた「成瀬仙人太鼓」。練習の時には幼い僕もついていき、芸事にふれることの多い環境で育ちました。そんな中、興味をもったのが三味線でした。さっそく三味線教室に通いましたが、先生に、「唄がわからないと三味線のよい演奏ができない。」と言われ、始めたのが民謡だったのです。

習い始めると、どんどん民謡の楽しさを感じるようになりました。民謡と言っても、様々なものがあります。盆踊りの時に謡われる激しい唄もあれば、悲しい唄もあります。また、お祝いの席でのしっとりとした唄もあり、一曲一曲にその時の思いが感じられることが魅力の一つです。

そして、習い始めて二年目からは大会に出場したり、老人ホームなどで披露したりするようになりました。

初めて参加した大会では、五位に終わり、とても悔しい思いをしました。その悔しさを晴らすために、練習を重ね、次の年には初めての優勝を手にすることができました。そして、さらに一年後。日本武道館で「小学生グランプリ大賞」を決める大会に参加しました。全国各地から集まった人の多さと会場の雰囲気緊張し、足が震えていました。謡い始めてもいつもの僕ではないような気がして、焦りがつのるばかりでした。しかし、終わってみると結果は自分が一番欲しかった小学生日本一の座を獲得。たくさんの方々喜んでいただいたことも僕にとって最高の喜びでした。

また、老人ホームなどへの訪問では入所者の方々に拍手をしてもらったり、笑顔になってもらったりすると僕のやる気も倍増します。

僕は人と関わったり、様々なことに挑戦したりすることをいつも心がけています。それで得た経験は、民謡だけでなく、大切なことを僕に教えてくれました。

こんな僕も今年、中学生になりました。今は、学校の勉強や部活動との両立が大変で、思うように練習できない状況が続いています。特に、土日の大会は、部活動を優先して、参加できないことも増えてきました。けれど、僕は民謡を謡うことをあきらめません。

ところで、僕には将来の夢があります。それは、農家になることです。ここまで話を聞いてくださっていたみなさんは意外に思われるかもしれませんが、これには理由があります。民謡には「作業唄」と呼ばれるものがたくさんあります。農業にかかわり、実際に農作物を育てることで、唄にさらに思いをのせることができると考えています。そうすることでもっと幅広い民謡を歌えるように、僕はなりたいのです。

僕を成長させてくれる民謡。どんなときも、民謡は僕の生活と共にあります。これからもたくさんの方に僕の思いを込めた歌声を届けていきたいと心に決めています。



☆ 翔太くんの「こぶしに生きる」は、11月19日(火)に皆瀬中学校で開催された令和元年度青少年育成湯沢市民大会でも優秀な作品として表彰されました。